

目指す学校像	「笑顔と希望にあふれ、みんなに愛される学校」～「認めて育てる」教育の推進～
重点目標	1 学ぶ楽しさ、喜びが味わえる授業(学習指導)の実践 2 安心・安全で心豊かな学びを保障する教育環境の充実 3 家庭・地域・関係諸機関との連携による教育の推進(コミュニティ・スクール) 4 一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい(Well-Being)学校をつくる教職員研修の充実

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、全市平均と比べ良好な結果である。 ○市の学習状況調査において、「学習に対する関心・意欲・態度」に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ理科、算数、社会でやや高く、国語、G・Sでやや低い。 ○児童のICT能力が高く、日頃の学習では意見交換や調べ学習等でタブレット型コンピュータを積極的に活用して学びに向かう児童が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、習熟の二極化と、根拠や理由など自分の考えを表現することに苦手意識をもっている児童が多い。 ○学習内容の理解度に比べると学習への興味・関心が十分に高まっておらず、児童が学習の意義を実感できるようにすること、達成感や充実感を味わえるようにすることが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着と学びの自律化に向けたICTの活用、授業改善</li> <li>一人ひとりのWell-Beingを大切に「未来の教育」づくり(学び方・教え方・働き方の向上)</li> </ul>	①「学びの指標」を生かした授業の達成状況について各教員が客観的に振り返り、授業力向上を図る。特に、授業ではICTを活用した自己の学びを振り返る時間を設定し、児童が自己の課題を把握できるようにする。 ②教科担任制を充実させ、かつICTを効果的に活用し、自分の思いや考えを表現する力を高めたり、児童同士で意見等を共有して表現したりする授業を進める。	①各種学習状況調査の学習に関する質問項目において、80%以上の肯定的な回答が得られたか。全国学力・学習状況調査における質問項目「課題解決に向けた取組」において、90%以上の肯定的な回答が得られたか。 ②学校評価項目「授業内容・発表・質問」の児童の達成率や市学習状況調査の学習に関する肯定的な回答率の割合が共に85%以上となったか。	①市学習状況調査の「教科の内容がよく分かる」や「学習したことは将来役に立つ」では8割以上の肯定的な回答が得られたが、「勉強が好き」では6～7割台にとどまる教科もあった。全国学力・学習状況調査における質問項目「課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組む」で95%、「友達や周りの考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組む」で99%の肯定的な回答が得られた。 ②学校評価項目「授業内容・発表・質問」における児童の肯定的回答率の平均は86%であった。一方で、「わからないことは、先生に質問しているか」は78%にとどまった。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の解決に向けて、自分で取り組んだり、友達と取り組んだりすることを肯定的に捉えている児童に育っている。今後も個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を授業の中で追求していきたい。そのためにも、どの児童も安心して学べ、力いっぱい成果が発揮できるような学級づくりが大切だと考える。それを基盤とした授業を進める中で「質問できる」児童の割合を増やしたい。</li> <li>児童の実態に即した授業が各学年で行われ、学んだことを生かす授業では児童の創意工夫が見られた。次年度は、教科横断的なカリキュラムマネジメントを推し進め、獲得した知識を活用する授業を増やし、主体的・探究的な学びが行われるよう授業改善を行っていく。</li> </ul>	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ・全国学力・学習状況調査においてどの教科でも全国・本市の平均を上回っているのは、取組の成果が表れている。 ・各種調査より基礎基本の定着が図られている。一方、獲得した知識を活用する力を育むことが課題になっている。他教科や日常生活との関連を意識した授業に向けた授業改善に努めてほしい。 ・「授業の内容はよくわかるか」の肯定的評価が94%でよかった。一方で「授業でわからないことは、先生に質問しているか」の肯定的評価が78%にとどまっているので、児童との関係づくりを大切にしてほしい。
2	(現状) ○市学習状況調査で、設問「学校に行くのが楽しい」に肯定的な回答をした児童の割合は高く、設問「自分にはよいところがある」では低い。 ○4月現在の保健室の利用状況は137人となっていて決して低い値とは言えない現状である。 (課題) ○昨年度、教職員間で「認めて育てる」という方針を具体化・共通理解できたことで、自尊感情の高い児童が増加したが、学年・学級で指導や声かけ等にバラツキがあることも事実である。 ○児童は事故やケガ防止の当事者意識が低く、「健康について関心はあるが、ケガや病気を未然に防ぐ」という点について児童の自覚や、教職員の指導の在り方等に課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感を育む、児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実</li> <li>清潔、安心安全な居場所づくりと児童の自己管理能力を育む各種取組の充実</li> </ul>	①年度当初に「元気アッププロジェクト」について全教職員で共通理解を図り、教職員の個性や持ち味を生かした活気ある教育活動を推進する。 ②スクールダッシュボードや定期的なアンケート・面談の実施、Solaの一むの効果的運営により児童の状況を細やかに把握・分析し、適切なタイミングで組織的に支援・相談を行う。	①各種児童アンケート「自尊心」や市学習状況調査「学校は楽しい」において、関連する項目の肯定的な回答の割合が85%以上となったか。 ②学校評価の教職員アンケートの項目「教育支援・相談」において平均95%以上、保護者アンケートの項目「家庭への連絡」において85%以上の肯定的な回答が得られたか。	①児童の学校評価項目「ほめてくれる」において、96%の肯定的な回答が得られた。市学習状況調査「学校に行くのは楽しい」の肯定的な回答が各学年で85%以上だった。 ②学校評価の教職員アンケートにおける「教育支援・相談」(8項目)においては平均99%、保護者アンケートにおける設問「家庭への連絡」においては93%以上の肯定的な回答が得られた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「元気アッププロジェクト」など教員からの児童への関わりの中で児童の自己肯定感を育む実践が行われた。教育相談週間や定期的なアンケートによる児童との面談の実施、おはようメーターやSolaルームの効果的な活用により、児童の状況を細やかに把握・分析し、適切なタイミングで組織的に支援・相談を行いたい。</li> <li>児童の生命に関わる大きなケガや事故がなく、安全に教育活動を行うことができた。校内けがマップの活用等を進め、今後も事故やけが防止の当事者意識を育んでいく。また、児童・教職員共に力を合わせ、敷地内の整美や緑化に努めていく。</li> </ul>	・「認めて育てる」教育の推進が結果に表れている。「元気アッププロジェクト」では、勉強から入らない視点で児童とのかかわりをもつ取組でよい。次年度も教職員の個性や持ち味を生かした特色ある教育活動を進めてほしい。 ・各種アンケートの実施やおはようメーターなど多角的に情報を活用してほしい。「悩みや困ったことがあったときは、先生に相談できる」が前年比9%減だったので、気軽に相談できる関係を構築してほしい。
3	(現状) ○昨年度コミュニティ・スクールに関する情報をHPで発信し、学校行事や親子夕涼み会、3世代ふれあいフェスタ等を通して学校・家庭・地域全体との結びつきを強めることができた。 ○児童・保護者の悩みやトラブル、いじめや問題行動等に対して家庭やSC、SSWと連携しながら、迅速かつ丁寧に対応することができた。 (課題) ○児童と地域が繋がる場を広げ、学校と地域が協働して地域総がかりの教育を実践していく。 ○挨拶等を通して顔の見える関係づくりを進め、学校と地域、関係する諸団体との結びつきを確かなものにしていく。また、地域全体の望ましい人間関係づくりや地域教育力の向上を目指し、児童を守る防犯・防災体制も整えていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す児童像を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動公開</li> <li>トラブル等における適切な対応と地域総がかりによる挨拶を通じた地域教育力の向上</li> </ul>	①各種ボランティアや地域諸団体による協力や、本校HPを通して学校運営協議会及びSSNの情報を発信して学校の様子等を家庭、地域と共有する。 ②運動会の充実や、地域懇談・育成会等への参加、地域の方を招いた給食試食会の実施等を通して、学校の情報提供と共に、要望等にも耳を傾ける。	①学校評価の保護者アンケートで、「学校や地域の特色を生かした教育活動に取り組んでいる」と回答する割合が85%以上となったか。 ②学校評価の保護者アンケートで、「保護者や地域の方々に学校を知ってもらう努力をしている」と回答する割合が90%以上となったか。	①学校評価の保護者アンケートにおける設問「学校や地域の特色を生かした教育活動に取り組んでいる」と回答した割合が96%であった。 ②学校評価の保護者アンケートにおける設問「保護者や地域の方々に学校を知ってもらう努力をしている」と回答した割合が95%であった。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会を含む各学校行事や地域団体が主催する親子夕涼み会、3世代ふれあいフェスタ等を通して児童と地域が繋がる場を広げることができた。クリーン活動にはたくさん保護者の協力も得られた。今後も各種お便りを通し、児童や学校の様子等を家庭・地域と共有していく。</li> <li>子ども・保護者の悩みやトラブル、いじめや問題行動等に対して家庭やSC、SSWと連携しながら、丁寧に対応することができた。次年度も教育相談日・週間の効果的活用、働き方改革を通じた児童と向き合う時間の確保、全教職員の「模範となる挨拶と呼びかけ」を進めていきたい。</li> </ul>	・学校を真ん中に、地域と協働する取組が行われた。今後もコミュニティスクールの取組を知らせ、地域に関心をもつ人が増える事を期待したい。 ・いじめや不登校への対応については、家庭や関係機関と連携し、児童に寄り添った対応を継続してほしい。 ・「進んであいさつができる」と回答した児童が2%増えた。地域でのあいさつが課題であることをふまえ、他機関と連携した「あいさつ運動」の機会などに重点的に呼びかけてほしい。
4	(現状) ○日常的にICTを活用する姿がみられるようになり、昨年度には「個別最適な学び」研究指定校として、研究発表会を開催した。 ○高学年教科担任制により、担当教科における深い教材研究を行うことができていく。 (課題) ○ICTの効果的な活用方法については、エバンジェリストが中心となり検討・周知する。 ○校内研修や学年会で、個々の悩みや課題等を適時共有し、主体的な研修の充実を図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地のよい(Well-Being)学校をつくる研修の充実</li> </ul>	①学期に1回以上、スクールダッシュボードを含めICTの効果的な活用方法について学ぶ研修を実施する。 ②高学年教科担任制により複数教員で学年児童の様子を多面的にとらえるとともに、各教科の専門性を高めることで児童理解と授業改善を行う。 ③個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指し、教員が個人課題を設定し、実践に取り組み、学校全体の授業力を高める。	①学校評価の教職員アンケート「視聴覚教材の活用」において90%以上の肯定的な回答が得られたか。 ②学校評価の児童アンケート(高学年)で、「授業の内容が、よくわかる」と肯定的に回答する割合が90%以上となったか。 ③全ての教員が授業改善を行い、学校評価の教職員アンケート「研修」項目で、「強くそう思う」回答の割合が22%以上となったか。	①学校評価の教職員アンケートの項目「視聴覚教材の活用」において肯定的な回答が100%であった。 ②学校評価の児童アンケートの「授業の内容が、よくわかる」で高学年児童が肯定的に回答した割合が99%であった。 ③全ての教員が研修グループ内で授業公開と授業の振り返りを行った。学校評価の教職員アンケート「研修」項目で、「強くそう思う」と回答した割合が22%となった。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の実態に合ったICT機器の活用が当たり前になった。今後は効果的なICT活用を含めた授業改善を含めた研修を行ってほしい。</li> <li>高学年を中心とした教科担任制は担任との関りが減ることの児童への影響が心配であったが、「よくわかる」と捉えている児童の割合が高いため、継続して行う。そのうえで教科の枠を超えた学びの連携を教員間で行える時間を確保する。</li> </ul>	・教員1人1授業公開の実践は授業力向上の面からもよい。「できる喜び・学ぶ楽しさ」を味わい、自ら学びに向かう児童の育成を目指し取組んでほしい。 ・ICT活用の充実とともに、選択できる機会をつくり、学び方も自分で決める自律的な学習の定着に向け、さらに研修を深めてほしい。